

事業評価シート（平成27年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	自転車通行帯整備事業		
事業担当	土木部 道路整備課、まちづくり政策部 交通政策課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごころ〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'02	2 身近な生活環境を充実する	
根拠法令等	安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン		
対象・受益者	市民	事業期間	平成24年度 ~ 平成39年度
委託・協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
自転車の走行環境の向上が図られています。		自転車の安全で快適な走行環境を向上させるため、平塚駅を中心とした幹線的な自転車ネットワーク（日常の自転車ネットワーク）を整備します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	自転車通行帯(日常の自転車ネットワーク)整備率(平成27年度から)			単位	%
	説明・算定式	整備が完了した延長÷計画総延長(33km)×100				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標			3		
	実績			3		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	目標					
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成27年度の主な取組と成果						
平塚駅花水線の自転車通行帯の整備を行い、自転車の走行環境の向上を図りました。						
平成27年度の検証結果	A：成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	自転車利用アンケートによれば、歩行者と混在して走りづらい(52%)や自動車と混在して危険(40%)等、自転車空間整備の必要性が望まれています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	この事業により、平塚市総合交通計画における自転車ネットワークが形成され、自転車の走行環境の向上が図られます。また、継続によるネットワーク効果で、市民の利便性が上がり、事業の有効性が高まります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	市域の大部分が平坦な平塚市において、自転車の走行環境を整えることは、過度な自動車利用の転換を促し、交通混雑の解消、環境負荷の低減等が期待できます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	道路改良の予定がある路線については、無駄の削減と沿線住民の理解を得るために、それに合わせて自転車走行環境の整備を効率よく進めます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析 自転車走行空間の整備形態の選定パターンに従い、自転車走行帯の幅員が広く安全性の高い「自転車専用通行帯(自転車レーン)」での整備を進めたいが、限られた空間での整備を行うことから、費用対効果等を見極めながら整備形態を選定する必要があります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		整備形態の検討、警察との協議	研究会の開催、自転車走行環境整備計画の策定、設計・工事	設計・工事
財源内訳	国庫支出金	0	1,100	4,565
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	4,976	3,881
事業費 (A)		0	6,076	8,446
執行率 (%)		—	98.67	93.84

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成29年度の取組方針 平塚市自転車利用環境推進計画の整備方針に基づき、個別路線について、警察協議や地元調整を踏まえ、設計及び整備を実施します。
課長コメント 平塚市自転車利用環境推進計画に基づき、自転車ネットワークの整備効果を早期に発現させるため、平塚駅近傍から段階的に整備を実施する必要があると考えています。